備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要					
事業開始年度		平成１０年度		根拠法令・例規等	片上鉄道沿線地域活性化対策協議会・バス運行維持協定
総合計画	大項目	基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）：企画課
	中項目	基本施策	01	生活しやすいまちづくり	問合先 職・氏名：企画政策係長・田原義大
	小項目	施策	12	公共交通	問合先 電話：０８６９-６４-１８７１
事務事業名			05	旧片上鉄道沿線地域活性化事業	このシート作成に要した時間：1.0 時間

事業の目的	
対象（誰・何に対して）	児童、生徒、高齢者等の交通手段を持たない人（旧片上鉄道沿線地域に生活の拠点を置く人を中心）
目的（何のために）	通勤・通学・通院・買物等のために移動する手段を確保 バスの運行による旧片上鉄道沿線地域の活性化
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	生活交通としての路線バスの維持 旧片上鉄道沿線地域の活性化

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
片上・柵原間バス事業負担金	２市２町で構成された片上鉄道沿線地域活性化対策協議会において片上から柵原間の路線維持のため路線バス事業者に赤字相当額を補助する。この路線は、県補助事業の対象路線となっている。	◎
片鉄沿線地域活性化対策協議会運営事務	２市２町で構成された片上鉄道沿線地域活性化対策協議会において、片鉄沿線バスの補助金について検討している。	○

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	5,807	4,705	4,705
	必要人員 人件費	千円	0.05人 508	0.06人 574	0.03人 297
	事業費計	千円	6,315	5,279	5,002
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円			
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（　）	千円			
	一般財源	千円	6,315	5,279	5,002
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
結果指標 年間利用者数		説明	路線バス年間利用者数（業者報告数値）		
	結果指標量	事業	48,927	38,997	31,190
	対前年比	%	－	79.7%	80.0%
	活動コスト	円	6,315,000	5,279,000	5,002,000
	単位当たりコスト	円	129	135	160

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
年間利用者数（補助路線）	目標値（A）	50,000	50,000	40,000	35,000
	実績値（B）	48,927	38,997	31,190	到達目標値
	達成率（B/A）	97.85%	77.99%	77.98%	

成果指標設定の考え方・式や説明

年間利用者数（業者報告数値）　減便に伴う成果指標の修正を実施。

事務事業の評価

妥当性の評価

市の関与の妥当性

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている

必要性

- ☑ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：C

効率性の評価

コスト

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい

手段

- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：C

有効性の評価

目的達成度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：C

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

進行年度（H22年度）の改革改善内容

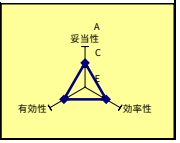
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

説明：引き続き、現路線の運行維持を維持しながら、便数減ダイヤ改正等必要な改善を実施している。改革案については協議会で決定している。昨年度は夏休み期間中は土曜日ダイヤで減便し運行した。

総合評価

この路線は、本市と和気町、赤磐市、美咲町を結ぶ唯一の公共交通機関であり、沿線地域の活性化を促進する意味でも重要な役割を担っている。しかし、年々利用者が減少していることから、今後は、実態を調査して、事業者とともに見直す必要がある。減便により利用者は減少傾向にある。

評価区分 <A～E>：C



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標：本年度も昨年に引き続き夏休み期間中の土曜ダイヤを検討する。利用者は減便とともに減少傾向にあるため、他の運行方法も検討していかなければならないと考える。今後協議会で協議していく。